

2020年8月2日(日)朝10:10 聖霊降臨節第10、自由交歓会等  
8月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：ヨハネの死(10～12)

聖書：マタイ 14章1～12節

<口語訳>

新約聖書22～23頁

マタイ 14章1～12節

<新共同訳>

新約聖書27～ 頁

マタイ 14章1～12節

<新改訳第3版>

新約聖書28～ 頁

マタイ 14章1～12節

<塚本訳>

新約聖書110～111頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ14:1～12節**の「**ヨハネの死(10～12)**」についての主の使信に心とめます。
- ⇒「**ヨハネの死(10～12)**」は、ユダヤ地方の領主**ヘロデ・アンティパス**の妻**ヘロデヤ**が娘をそそのかして、**ヘロデ**が娘に欲しいものは、何でも与えるとの誓約を利用して、獄中で首をはねたことによるのです。
- ⇒**御子イエス・キリスト様**は、「**ヨハネの死(10～12)**」をヨハネの弟子から聞き、退去され、弟子たちを教えることに専念されます。ヨハネは、彼の弟子たちによって葬られます(12)。
- ⇒この出来事を中心は、**OA師**によると、2節の**ヘロデ**の恐れ、不安、猜疑心と知って、**御子イエス・キリスト様**は、退去され、見て見ない人々から弟子教育に専念された。

本論；

◇本日、**マタイ書14:1～12節**から主の**使信**に  
**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ14章1～12節**；使徒**マタイ**は、  
「**ヨハネの死**(10～12)」を通して、「**神(天)の国**」  
の隠されている「**神の真理・真実**」が、示され  
ていると、あかししています。

◇**14:1～12節**；塚本訳◆  
**ヘロデとヨハネの理解**

「1 そのころ、イエスの評判が領主ヘロデ・アン  
テパスの耳にはいった。

2 「これは洗礼者ヨハネにちがいない。あれが  
死人の中から生きかえったのだ、それだから  
あんな(不思議な)力が彼の中に働いている」  
とヘロデは家来に言った。

3 それにはこういう訳がある。——ヘロデは(前  
に)その兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことから、  
ヨハネを捕らえ、しばって牢に入れたことがあ  
った。

4 ヨハネがヘロデに、「あなたはあの婦人を妻  
にするのはよろしくない」と言ったからである。

5 ヘロデではヨハネを殺したいと考えたが、民

衆はヨハネを預言者と思っていたので、彼ら(が騒ぎ出すの)を恐れた。

- 6 ところでヘロデでの誕生祝いがあったとき、ヘロデヤの娘が満座の中で舞をまい、ヘロデを喜ばせた。
  - 7 そのためヘロデは娘に、願うものはなんでもやろう、と誓いまで立てて約束した。
  - 8 娘は母の入り知恵で、「洗礼者ヨハネの首を盆にのせて、今ここに戴きます」と言う。
  - 9 王は悲しんだが、列座の人々の前で立てた誓いの手前、それを与えるように命じ、
  - 10 人をやって牢でヨハネの首をはねさせた。
  - 11 首は盆にのせて持ってきて少女に渡され、少女は母に持っていった。
  - 12 ヨハネの弟子たちは来てなきがらを引き取って葬り、行ってイエスに報告した。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。
- ◇**マタイ14:1～2節**；では、「そのころ、イエスの評判が領主ヘロデ・アンテパスの耳にはいった(1)」、「これは洗礼者ヨハネにちがいない。あれが死人の中から生きかえったのだ、それだからあんな(不思議な)力が彼の中に働い

ている」とヘロデは家来に言った(2)」と、**マタイ**は、「ヘロデの心理描写」をしています。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」を、「**ヨハネの死**(10～12)」と、結びつけ、「死人の中からの生き返り」だと、ヘロデは、妄想していたというのです。

⇒「それだからあんな(不思議な)力が彼の中に働いている」と、「**御子イエス・キリスト様**」の力あるわざを「**ヨハネの死**(10～12)」の罪悪感の口実にしようとしていたのです。

⇒ヘロデに限らず、心の罪悪感や思い煩いがあり、心に不安を抱くと、何かの言い訳をして、心が主に向かなくなるのです。

⇒**KT師**が、小塩力師のマルコ福音書6章の同じ平行箇所から、「幸福」という題で説教、2つの祝宴(ヘロデの誕生の祝宴と5つのパンと2匹の魚の質素な食事)を比べ、何が本当の幸せか問いかけておられると紹介しておられます。

⇒美味しいご馳走を召し上がるのが悪いのではありません。聖餐は、一切れのパンを小さなカップのジュースで、主の死と復活を記念するのです。当然、満腹感は、ありません。

◇**マタイ14:3～12節**では、「**ヨハネの死**(10～12)」の理由づけと、ヨハネの葬りをヨハネの弟子たちがしたことが記されています。

⇒ヘロデヤの残酷さと恨みのない質素な葬りが対照的に描かれています。

⇒**OA師**は、ヘロデヤ事件は、付け足しで、ヘロデと「**御子イエス・キリスト様の振る舞い**」が、中心だと語っておられます。来週見ます**マタイ14:13節**の静かな舟の上の「**御子イエス・キリスト様**」へと、**マタイ**は、結びつけていると仰せです。

⇒最終的に「**御子イエス・キリスト様**」を十字架につける決定をしたのは、領主ヘロデと総督ポンテオ・ピラトの権力者でした。

⇒何時の時代も、腐敗した権力に多くの人々が苦しんでいます。不正の権力者が幸せではありません。乏しくても、満ち足りた心を与える恵みの主がともにいて下さるのが幸せ。

⇒【口語訳】ロマ 6:10

なぜなら、キリストが死んだのは、ただ一度罪に対して死んだのであり、キリストが生きるのは、神に生きるのだからである。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は**マタイ14:1～12節**の「**ヨハネの死**(10～12)」についての主の使信に心とめます。

⇒「**ヨハネの死**(10～12)」は、ユダヤ地方の領主ヘロデ・アンティパスの妻ヘロデヤが娘をそそのかして、ヘロデが娘に欲しいものは、何でも与えるとの誓約を利用して、獄中で首をはねたことによるのです。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、「**ヨハネの死**」をヨハネの弟子から聞き、退去され、弟子たちを教えることに専念されます。ヨハネは、彼の弟子たちにより葬られます(12)。

⇒この出来事を中心は、**OA師**によると、2節のヘロデの恐れ、不安、猜疑心と知って、**御子イエス・キリスト様**は、退去され、見て見ない人々から弟子教育に専念された。

⇒【口語訳】マルコ 8:34

それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。